

福島第1原発で爆発事故が起きたとき、私は、私の家から数千kmも離れている遠い国の多くの人の生活は、1986年の私と同じように、原発事故の前と後に分かれてしまったと思いました。

チェルノブイリ原発事故 悲劇を体験して

ウクライナの女性ジャーナリストが伝えるチェルノブイリ事故の被災体験

2019年

日時 **1月11日** 金

10:30~12:30
(開場: 10:00)

会場 **長崎歴史文化博物館**

入場無料

1986年4月26日(現地時間)、チェルノブイリ原子力発電所の原発事故によって広島原爆の何倍もの放射性物質が放出しました。爆発した4号炉から放出された放射性ガスとちりは、風によって中央ヨーロッパから南ヨーロッパまで拡散しました。日本でも5月3日に放射性物質が確認されています。チェルノブイリ原発事故によって半径30キロが居住禁止区域に指定され、15万人もの周辺住民は二度と自宅に戻ることはできずにいます。原発があったプリチャピ市は今も無人のままです。後に決められた国際原子力事象評価尺度(INES)において最悪のレベル7(深刻な事故)に分類され、世界で最悪の原子力発電所事故の一つとなっています。そして、32年が経過した今も被害は続いています。

世界で初めて原発が大爆発した事故で、強制移住区域になった地区の新聞の編集長をしていた女性が、子どもを連れて避難し、各地で新しい村が建設される実情を報道して「金のペン」賞を得ました。

原発事故で何が起こったか、福島とは異なる体験記を聞くことができる貴重な機会です。

講師



リュドミラ・メハさん

(ジャーナリスト・イニシアティブ基金・代表)

当日会場に参加いただく方

- SERHI SHEVCHENKO
(セルゲイ・シェフチェンコ)さん
ジャーナリスト同盟・書記
- OLEH YARMOLENKO
(オレグ・ヤルムリエンコ)さん
被害者を治す日本プロジェクトを、現地取材中のTVジャーナリスト。
- SERGIY TOMILENKO
(セルゲイ・トミレンコ)さん
ウクライナ最大のジャーナリスト団体、ジャーナリスト同盟・会長で、ジャーナリストへの暴力被害に取り組んでいます。

お申込み・お問合せ先

グリーンコープ生協組合員事務局

TEL 0957-46-3881

FAX 0957-46-3882

Email : h0kmja0@greencoop.or.jp

主催：グリーンコープ生活協同組合

メハ会長講演抄録（一部）

1986年4月26日に、チェルノブイリ原発で大事故起きました。当時、私はチェルノブイリから40km離れたマカロフ新聞の編集長として働いており、数年間はキエフ・ポリシアの地区新聞連合体の指導者でした。

ポリシア地区に住む人々は、原発事故で住んでいる家からの緊急脱出、本人・家族・親類の健康と生命が危険になりました。

この悲劇は、他の数十万のウクライナの家族と同じように、私と家族にとっての一生を文字どおり、事故前と事故後に分けました。……………

当時はソ連で「ペレストロイカとグラスノスチ（改革と情報公開）」と言われたのに、原発事故について、最初の数日は、情報がありませんでした。

それでも私たちの町の本通りを、絶え間なく通りすぎる自動車の流れで、普通ではない何か、もしかして恐ろしいことが起きたかもしれないとは思っていました。

にもかかわらず、ラジオやテレビでは情報が何もなかったのです。

1日経ってから休みの日に、当時、支配していた共産党の地区委員会第一書記が、地区組織の指導者たちを呼び出して、チェルノブイリ原発で事故が起きたとだけ報告しました。……………

事故の規模と影響が報告されなかったのは、あの当時に予見することはできなかったのか、最初から真実を言いたくなかったのか、それとも住民たちがパニックに陥ってほしくな

かったのか、そういうことだと思います。

今でも私の目には、マカロフの中央広場に小旗や風船を持っている着飾った生徒たち、赤ちゃんを抱いている親たちがいる姿が浮かんできます。

そこには、私の同級生の9歳になった娘もいました。

数日後、チェルノブイリ地区のシェペリチ村、コパチ村、チェルノブイリ市、プリピャチ市の約60,000人の住民たちが避難させられました。……………

マカロフは首都キエフの郊外にある町なので、私の最初の夫、バレーリはキエフで働いていました。原発事故の後、川の港を通して様々な荷物が届けられていましたが、ここは立ち入り禁止地区から110km離れているのに、1~2年後から、夫の仲間たちは病気で亡くなる人が出てきました。

不幸は私の家族も見逃しませんでした。3年後、それまで健康だった夫が、口の粘膜のガンだと診断されました。手術やお金のかかる治療もしましたが、期待している結果をもたらさず、バレーリは42歳で亡くなりました。……………

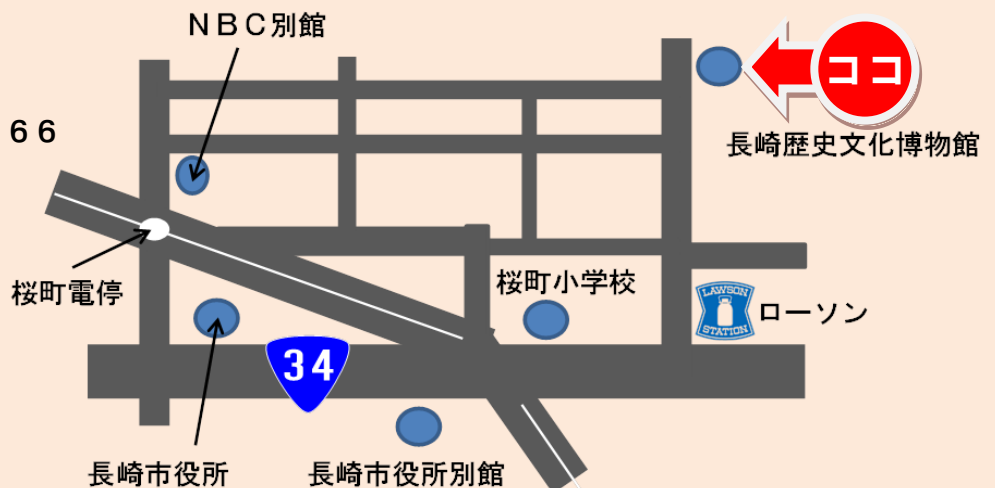
歴史から、私たちは第2次世界大戦の広島と長崎の数十万人の住民の悲劇を知っています。これらの遠くなった出来事は、今も人々の運命に影響を与えています。

日本とウクライナの両国民は不幸のとき、お互いにサポートする価値をよく知っています。

悲劇ではなく、明るい実証イベントが我々を近づけ、相互の理解と尊敬がベースになって、親しい関係が發展します。そうなってほしいと願っています。

会場地図

長崎市立山1丁目1番1号
電話 095-818-8366



アクセス

●JR利用の場合

JR 長崎駅より、桜町方面へ徒歩10分
JR 長崎駅(ファミリーマート前バス停)より、
県営バス(風頭町~夢彩都線)「歴史文化博物館」
下車

●バス利用の場合

路線バス「桜町公園前」下車。徒歩3分。
県営バス(風頭町~夢彩都線)「歴史文化博物館」
下車。

●路面電車利用の場合

「桜町」下車。徒歩5分。
「長崎駅前」下車。桜町方面へ徒歩10分。
「市民会館(旧名称:公会堂前)」下車。桜町
小学校方面へ徒歩10分

●車利用の場合

長崎自動車道(長崎芒塚IC)より諏訪神社方
面へ10分